



出生時体重の重かった幼児期の男児は高い運動能力を有する

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 日本DOHaD研究会 公開日: 2019-01-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 尾崎, 隼朗, 宮田, 洋之, 棗, 寿喜, 染谷, 亜規子, 鈴木, 宏哉, 木村, 憲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10271/00003481

出生時体重の重かった幼児期の男児は高い運動能力を有する
Preschool boys with higher birth weight have higher physical fitness

尾崎隼朗¹、宮田洋之²、棗寿喜¹、染谷亜規子³、鈴木宏哉¹、木村憲⁴

Hayao Ozaki¹, Hiroyuki Miyata², Toshiharu Natsume¹, Akiko Someya³, Koya Suzuki¹,
Ken Kimura⁴

1. 順天堂大学スポーツ健康科学部 2. 東京福祉大学保育児童学部、
3. 認定こども園 Rainbow Wings International 4. 東京電機大学工学部人間科学系列
1. Graduate school of Health and Sports Science, Juntendo University,
2. School of Child Care and Early Childhood Education, Tokyo University and
Graduate School of Social Welfare 3. Rainbow Wings International Nursery and Preschool
4. Department of Humanities and Social Sciences, Tokyo Denki University

【背景・目的】

出生時体重が重かった者で、青年期以降の握力が高い傾向にあることに加え、近年では、小学生においても、握力や 20m 走の記録が良いことが報告されている。しかし、幼児期において、既にこのような関係が認められるか、また出生時体重は骨格筋量と関連があるかについては明らかではない。本研究の目的は、幼児期の男児において出生時体重と運動能力および全身各部位の筋厚との関係を検討することであった。

【対象・方法】

年少～年長の男児 19 名(月齢: 53 ± 10 ヶ月、身長: 103.0 ± 7.8 cm、体重: 16.9 ± 2.6 kg、BMI: 15.9 ± 1.3 kg/m²、出生時体重: 3.174 ± 0.403 kg)を対象とした。一般に実施される 7 種目の体力テスト(握力、体支持時間、反復横跳び、長座体前屈、25m 走、立ち幅跳び、ソフトボール投げ)により運動能力を、超音波 B モード法を用いて全身 8 部位の筋厚(上腕部前面・後面、前腕部前面、腹部、大腿部前面・後面、下腿部前面・後面)を評価した。出生時体重と各測定項目の関連を月齢と BMI を制御変数とした偏相関により検討した。

【結果】

出生時体重は握力($r=0.556$, $p<0.05$)、反復横跳び($r=0.677$, $p<0.05$)、立ち幅跳び($r=0.803$, $p<0.01$)の記録と有意な正の相関関係にあったが、その他の体力テスト項目とは有意な関係は観察されなかった。一方、筋厚に関しては、いずれの部位においても、出生時体重と有意な関係は認められなかった。

【結論】

出生時体重の重かった幼児期の男児では、比較的単純な力・パワー発揮を反映する体力テストの記録が良い可能性が示唆された。